

# 第9期静岡県森林県民円卓会議報告書

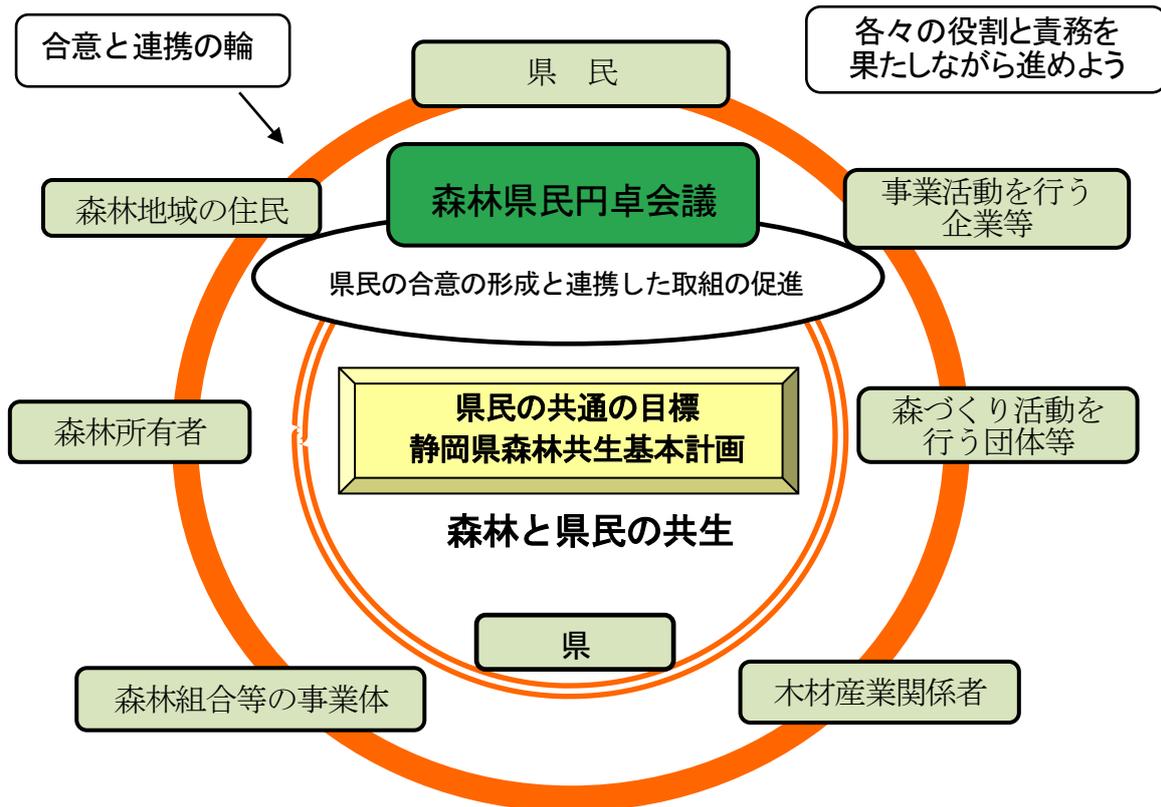
(令和4年7月～令和6年6月)



静岡県

# 森林県民円卓会議

○森林との共生について、一部の人間だけに任せるのではなく、県民自身が、地域の森林の将来の姿や、それを実現するための各人の関わり方などを話し合い、合意形成を図るため、「静岡県森林と県民の共生に関する条例」第10条に基づき、森林県民円卓会議を設置します。



## 静岡県森林と県民の共生に関する条例

(森林県民円卓会議の設置)

第10条 県は、県民の森林との共生に関する合意の形成及び連携した取組を促進するため、森林県民円卓会議を置く。

2 森林県民円卓会議は、次に掲げる事務を行う。

- (1) 地域の特性に応じた森林との共生に関する事項について、地域の住民等の意見を収集すること。
- (2) 前号に規定する地域の住民等の意見に基づく地域の森林に関する課題及び提案について協議すること。
- (3) 前号の規定による協議の結果を森林との共生に関する基本的な方針としてとりまとめること。
- (4) 前号に規定する基本的な方針について、広く情報を発信すること。

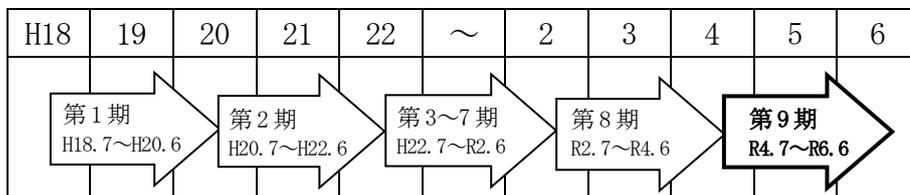
# 第9期森林県民円卓会議

## 1 ねらい

- ・森林共生白書等を活用し、「森林との共生」（森林を守り、育て、活かす）に関する県内の取組状況を共有する。
- ・参加者各人のネットワークを活かした各地域の先駆的な取組を持ち寄り、森林・林業に関する課題や県民の行動に係る解決策について、検討・提案を行う。
- ・議論を通じて、地域の森林について自ら考える意識の醸成を図る。

## 2 期間

- ・令和4年7月～令和6年6月（1期2年）



## 3 運営方法

- ・条例第10条に基づき、伊豆、富士、静岡及び天竜の4地域に、「運営委員」（知事が委嘱）と「県民委員」（参加者）で構成する、森林県民円卓会議を設置する。
- ・「森林との共生」（地域の森林を守り、育て、活かす）に関し、地域ごとに独自のテーマを設定して、課題や解決策、将来像などについて幅広く議論する。
- ・議論した結果は、取りまとめて、インターネット等を通じ情報発信する。

## 4 運営委員

担当地域名	氏名
伊豆	斉藤 大輔
富士	井戸 直樹
静岡	今永 正文
天竜	石黒 信子
全県	小嶋 睦雄

5 第9期森林県民円卓会議開催概要

地域	開催日	取組内容	参加人数
伊豆	令和5年3月4日	テーマ：伊豆の森の歴史を将来に紡ぐ (1)自然観察 (2)焚火起こし (3)意見交換	20人
	令和6年3月9日	テーマ：親子しいたけ菌打ち体験を通じた、伊豆地域の森林・林業・伝統産業への理解促進 (1)しいたけ菌打ち体験 (2)意見交換	42人
富士	令和4年10月12日	テーマ：森林・林業の現状と課題、森林環境教育等の必要性について (1)研修会講話 (2)意見交換 (3)フィールドワーク	90人
	令和5年12月2日	テーマ：「森は海の恋人」森は海を想い、海は森に感謝する関係づくり (1)意見交換	31人
静岡	令和5年2月28日	テーマ：「木育」の今とこれから (1)講演 (2)ディスカッション	12人
	令和6年1月28日	テーマ：こんな森にしたい♪私たちのオクシズの森林 (1)意見交換	76人
天竜	令和5年3月5日	テーマ：どうする放置竹林 (1)意見交換	17人
	令和6年1月19日	テーマ：多様な樹種を使う (1)講演 (2)意見交換	26人
計	8回開催		314人

# 伊豆地域森林県民円卓会議の活動報告

開催日時	令和5年3月4日（土）9時～16時30分
会場	mata-ne 村（伊豆市八幡 1053）
テーマ	伊豆の森の歴史を将来に紡ぐ
参加人数	20人
内容	<p>○自然観察 齊藤氏が、ファシリテーターとなり、伊豆半島の広葉樹を紹介。</p> <p>○焚火起こし 2人1組に分かれ、ヒノキの薪を鉋で削り、焚き付けを作り、実際に焚火起こしを体験</p> <p>○円卓会議 焚火を囲んで、森林の役割や期待したいこと、など意見交換。 一人1枚ずつ、A4ペーパーに自由に森林や焚火への思いを記入</p>
意見件数	5件
発言者数	5人
意見概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森の中に入って落ち葉や木々に触れることで気づくことがたくさんあった。山で遊ぶのは、やはり楽しい。今回のような管理されていない（キャンプ場ではない）場所で、実際火を起こしてみて、改めて自然との付き合い方を考えさせられた。</li> <li>・伊豆地域以外で、今後、環境教育を行いたいと考えている。まずは、その土地にどのような種の樹が自生しているのか、早速調べたい。クロモジがあれば今回のように、煮出して、ふるまえたらと思う。</li> <li>・手が入っていない広葉樹も多くみられる。こうやって、利用することは非常に大事だと感じた。広葉樹だけでなく、針葉樹の整備も必要。さっき削ったヒノキのようにもっと針葉樹の活用も進めば、整備も進むのでは。</li> <li>・円卓会議は、若い世代が森林に触れ、学べる機会として貴重。齊藤先生のように現場で森林の役割や管理の必要性を伝えてもらうことで、林業の担い手に繋がっていく。</li> <li>・森林の新しい役割として「森林サービス」という言葉も聞くようになり、キャンプブームも根付いてきた。今後、森林がもっと活用され森林も元気になるといい。</li> </ul>



開催日時	令和6年3月9日（土）
会場	mata-ne 村（伊豆市八幡 1053）
テーマ	親子しいたけ菌打ち体験を通じた、伊豆地域の森林・林業・伝統産業への理解促進
参加人数	42人
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○開会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林県民円卓会議の趣旨や体験内容の説明</li> </ul> </li> <li>○体験プログラム <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 親子による、しいたけ菌打ち体験（ドリル穴あけ、種駒打ち）</li> <li>・ 参加者は、ほだ木を持ち帰り、自宅で管理育成</li> </ul> </li> <li>○まとめ・意見交換 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伊豆地域の魅力とは（キーワード：伊豆半島は最高！）</li> <li>・ 体験を通じて感じたこと 伊豆地域の森林・林業・しいたけ産業</li> </ul> </li> </ul>
意見件数	10件
発言者数	22人
意見概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伊豆地域のクヌギ・コナラが、人工的に植えられたことは知らなかった。</li> <li>・ ほだ木は重く、運ぶのが大変。しいたけ農家の大変さも実感し、原木しいたけのありがたみを、体験を通じて感じる事ができた。</li> <li>・ とても楽しく、収穫が楽しみ（意見多数）。</li> <li>・ また、ぜひ、こうした企画を実施してほしい。</li> <li>・ しいたけを育てながら、子供たちの成長も感じる事ができ嬉しい。</li> </ul>



# 富士地域森林県民円卓会議の活動報告

開催日時	令和4年10月12日(水) 14:45~15:40
会場	富士教育会館(富士市大淵) zoom 主催者 PC ※参加者は各中学校の PC からオンライン参加
テーマ	森林・林業の現状と課題、森林環境教育等の必要性について
参加人数	90人
内容	○森林・林業研修会(森風舎代表 中村俊康氏) 講話①「日本の森林、林業を取り巻く現状と課題」 講話②「学校教育での森林環境教育(SDGs)の必要性と取り組み」 ○森林県民円卓会議(進行:井戸委員) 1. 開会、趣旨説明(農林事務所) 2. 意見交換、質疑応答(研修会講話を受けて) 3. 閉会(小嶋委員によるまとめ) ※森林・林業フィールドワーク(10月16日(日)現地研修)
意見件数	16件
発言者数	13人
意見概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・輸入材を少し制限して、国産材をもっと使うことを考えては。ウッドショック等を日本の林業や国産材の追い風として、盛り上げる政策はないのか。</li> <li>・自分の親戚が山を持っているが、場所はなんとなく分かる程度で、手入れもできない、正直手放したいという気持ち。</li> <li>・裏山で里山整備を行っているが、子供達は実感が湧いていない様子。伐採=危険と捉える生徒が多い。</li> <li>・森林が抱える課題や木を切ることの一面的な考え方について、今まで以上に切迫した課題として感じられた。森林の持つ可能性を大切にしていけるような方法を子供達と一緒に考えたい。</li> <li>・今日はたくさんの疑問が湧いてきたが、疑問を持つことから森林と共に生きる県民の1人だという自覚を持っていけると感じた。子供達にもそのような経験をさせてあげられるようにしていきたい。</li> <li>・世界的な森林の伐採問題がある中で、日本では伐って守っていかなければならないことを知ることができた。</li> <li>・実際の森の中に入って、森や木のおい、木の響き等を感じることは、本物を体験することは、子供たちにとって良い体験になる。</li> <li>・日本の産業として林業があること、林業が重要な仕事であることを子</li> </ul>

供たちに伝えていきたい。

- ・山奥の材を出そうと思ったら、赤字になって出せないということが分かった。将来、林業に従事する子供たちを増やしたい。

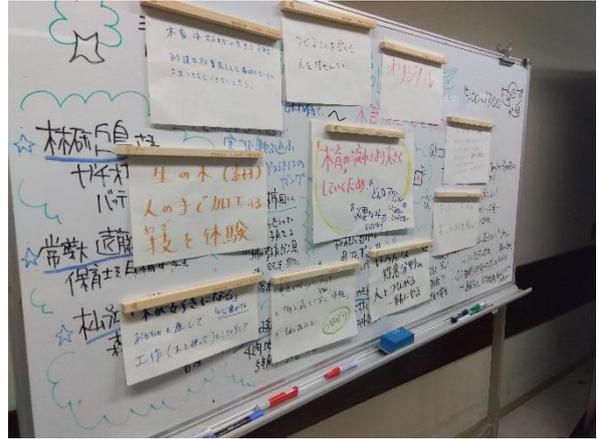


開催日時	令和5年12月2日（土）11：30～12：30
会場	田子の浦漁業協同組合（富士市前田）
テーマ	「森は海の恋人」森は海を想い、海は森に感謝する関係づくり
参加人数	31人
内容	<p>○漁業と林業が連携した森・里・川・海の環境保全実践活動プログラム（環境政策課）</p> <p>座学：田子の浦漁協の業務、駿河湾の変化  実践活動（技術交流）：ロープの結び方、漁網の補修方法  実践活動：乗船体験、流木等漂流物の堆積確認</p> <p>○森林県民円卓会議（進行：井戸委員）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会、趣旨説明（農林事務所）</li> <li>2. 意見交換、質疑応答（実践活動を受けて）</li> <li>3. 閉会（小嶋委員によるまとめ）</li> </ol>
意見件数	22件
発言者数	22人
意見概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山での活動は、森林浴もさせてもらい良い経験になった。シラス漁は今年も不漁だったので、今後も山と海とのつながりで、山も海もよくなる取り組みを続けたい。</li> <li>・台風や大雨が降ると必ず流木が出る。それが海まで出ると網にかかる、スクリーンを傷める。防げと言われても無理かもしれないが、漁師にとっては大きな問題。</li> <li>・川で鮎が取れなくなった時に、重機を持って行って川の環境整備を共同作業でやった。流木で困っているのであれば、重機を持って行って運び出すこともできる。</li> <li>・森林組合の方々が伐採した木が流れてくるわけではないが、流木の問題が山の方で改善されるとよいと思う。</li> <li>・人が植えた山は、人が手入れをしないと荒廃していき、それが災害を誘発して、皆さんに迷惑となる流木を出してしまうかもしれない。私たち森林組合は、皆さんのことを思いながら森林整備を進めていきたい。</li> <li>・海から見ると流木は全て山のせい、山から見るとそれは違う、といった認識の違いも、このような場を設けることで埋まっていくのではないかな。</li> </ul>



# 静岡地域森林県民円卓会議の活動報告

開催日時	令和5年2月28日 15:00～17:20
会場	県静岡総合庁舎7階第10会議室（静岡市葵区有明町2-20）
テーマ	「木育」の今とこれから
参加人数	12人
内容	<p>静岡県中部の「木育」をこれからどのように広げていけばいいのか、木育に関わる方々と話し合った。</p> <p>進行：今永委員（円卓会議） 講評：小嶋委員（円卓会議）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 部長挨拶・趣旨説明</li> <li>2 自己紹介</li> <li>3 基調講演 NPO 法人グリーンウッドワーク協会 理事長 小野 敦 氏 「木育」の今とこれから ～実例を踏まえて～</li> <li>4 事例紹介 静岡市中山間地振興課 「木育」をテーマとした「オクシズ材」の活用促進について</li> <li>5 グループワークによるディスカッション</li> <li>6 まとめ及び講評</li> </ol>
意見件数	9件
発言者数	9人
意見概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木育は大人から子供まで必要、林業家として森林の大切さを伝える。</li> <li>・人の手で生の木（素材）を加工する技の体験を。</li> <li>・木のおもちゃをとおして「木が好きになる」心豊かな人間に。</li> <li>・木育をとおして、人が楽しめる社会になったらいいと思う。</li> <li>・子供も大人も楽しめる体験を。</li> <li>・行政だからこそできるようなオリジナルな活動をしたい。</li> <li>・いろんな得意分野の人とつながる、一緒にやる。</li> <li>・林業家とエンドユーザーである街中にいる人をつなげていきたい。</li> <li>・遊び＝教育、雰囲気ではなく真剣にそれが作れるか。 など</li> </ul>



開催日時	令和6年1月28日 10:00～15:30
会場	静岡市林業センターほか（静岡市葵区千代ほか）
テーマ	こんな森にしたい♪私たちのオクシズの森林
参加人数	76人
内容	<p>静岡市が主催する第9回オクシズ森林の市の運営者や来場者の意見（以下、「会場意見」）を付箋に記載し、イベントの一つである「製材所～住宅建築現場見学バスツアー」（以下、「バスツアー」）の参加者と協議し合意形成を図った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>会場意見の収集 <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマについて、会場内の流域住民や市民、林業家や林業事業体及び木材産業関係者などから意見を収集</li> </ul> </li> <li>バスツアー参加者の意見収集及び合意形成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・オクシズの森林や森林県民円卓会議について説明、意見集約、合意形成及びまとめ</li> </ul> </li> </ol>
意見件数	76件
発言者数	一人
意見概要	<p>○ 協議結果 『にぎわい、いっぱい』のオクシズの森 ～楽しい森、共生する森、恵みのある森、つながる森、安全な森、集える森～</p> <p>○ 主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊具やアスレチックがある楽しい森 ウォーキングコース、マップを増やしてほしい</li> <li>・野生動物たちも安心して生きていけるような環境ができたらいいと思う</li> <li>・水資源を大切に 山の大切さ大事さを人間皆で守っていきましょう</li> <li>・もちつもたれつ持続可能な健康な森</li> <li>・獣害・災害のない安心して暮らせる森林</li> <li>・A forest where little boys and girls can play</li> </ul>



# 天竜地域森林県民円卓会議の活動報告

開催日時	令和5年3月5日（日）14:00～16:00
会場	湖西市北部多目的センター 講座室（湖西市太田）
テーマ	どうする放置竹林
参加人数	17人
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 運営委員あいさつ</li> <li>3 森林県民円卓会議について</li> <li>4 事業概要説明 「森の力再生事業と森林環境譲与税」 西部農林事務所森林整備課</li> <li>5 取組事例紹介 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「森の力再生事業」による竹林・広葉樹林の整備 西部農林事務所森林整備課</li> <li>(2) 「湖西市森林保護整備事業」による森林整備の事例 湖西市産業振興課</li> </ol> </li> <li>6 意見交換</li> <li>7 意見交換結果発表</li> <li>8 まとめ</li> </ol>
意見件数	17件
発言者数	17人
意見概要	<p>3班に分かれての意見交換結果 地権者が不明、地権者の理解が乏しい、地権者から協力が得られない等、地権者に起因する課題が多く挙げられた。</p> <p>湖西市森林保護整備事業と森の力再生事業の実施後の管理を行政に求める意見が出た一方で、行政に頼らず地域で管理していく体制の構築を意識した意見も寄せられた。</p>



開催日時	令和6年1月19日（金） 13：30～15：30
会場	中遠総合庁舎 404・405 会議室（磐田市見付）
テーマ	多様な樹種を使う
参加人数	26人
内容	<p>先進事例発表をきっかけに、出席者から意見を発言してもらう方式とした。</p> <p>(1) 挨拶・オリエンテーション 13：30～  「家具産業と広葉樹の流通状況」 中遠農林事務所 森林整備課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挨拶の中で、森林県民円卓会議の意義を説明</li> <li>・ 導入として、テーマの設定理由、国内・県内の家具産業の概要、家具に使用されている木材の現状、国内における広葉樹の流通の概要、天竜地域の広葉樹資源の概要について説明を行った。</li> </ul> <p>(2) 先進事例発表 13：50～  「ヨキカグによる県産広葉樹を使った家具づくり」  講師 ヨキカグ実行委員会（玉川きこり社）ディレクター 繁田浩嗣 氏  県産広葉樹等を使用した家具づくりを進めるヨキカグ実行委員会の活動を紹介していただいた。</p> <p>(3) 意見交換 14：30～15：30  進行：石黒信子氏（補助：藤浪）、まとめ：小嶋睦雄氏</p>
意見件数	11件
発言者数	11人
意見概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近所で支障木として立派なサクラが切られることになったが、何もできずに多分チップ材として処分されてしまった。何とか利用できる仕組みがないかと思った。（森林計測関係者）</li> <li>・ 近年、森林組合にも支障木伐採の依頼が増えてきている。当森林組合では薪生産が好評である（森林組合関係者）</li> <li>・ 静岡県でもヨキカグのような、広葉樹を多彩に活用している事例を知ることができて有意義であった。個人的にはこれからは広葉樹の時代だと考えている。いい刺激をもらった。（森林組合関係者）</li> <li>・ 繁田氏と同じくクライミングが趣味なので、ホールドなどのクライミングの道具などに広葉樹が使えないだろうかと思った（森林組合関係者）</li> <li>・ 支障木は形状も様々で、腐りがあり、歩留まりが悪い。広葉樹を育成していくことも考えてくべきではないかと思った。（林業経営体関係者）</li> <li>・ 県外（兵庫）では、広葉樹林の取引において、契約後、買い手が広葉樹（コナラやクヌギ）の価値を再認識し、売り手に対し買い取り単価の上積みを申し出た事例もあったそう。今後、広葉樹の活用が進めば、森林の価値も上昇すると思われる（森林計測関係者）</li> <li>・ 県産材を利用した家づくりを行っている。たまに部分的（カウンターなど）に海</li> </ul>

外産広葉樹を利用した経験もあるが、ウッドショック後は木材の価格が上昇し、使いづらい状況にある。ヨキカグのように県産広葉樹が使える仕組みができればいいと思う。(住宅工務店関係者)

- ・ 小型の家具や文具を作っている。海外で時計や万年筆を収納する小箱が好評。中でもヒノキ製が一番人気。いわゆる富裕層でこだわりがある人たちなので、変わった素材は受ける可能性がある。また小ロットでいいので、県産広葉樹の利用には興味がある。(家具・文具製造関係者)
- ・ 役所の仕事でも支障木処理＝チップ処理と相場が決まっている。ヨキカグのような使い道は新鮮。(市職員)
- ・ 山側の「想い」を伝えることができる使い方として有意義だと感じた。(森林組合関係者)



# お問い合わせ先

## ○伊豆地域森林県民円卓会議事務局

賀茂農林事務所 森林整備課

〒415-0016 下田市中 531-1

☎0558(24)2082

東部農林事務所 森林整備課

〒410-0055 沼津市高島本町 1-3

☎055(920)2170

## ○富土地域森林県民円卓会議事務局

東部農林事務所 森林整備課

〒410-0055 沼津市高島本町 1-3

☎055(920)2170

富士農林事務所 森林整備課

〒416-0906 富士市本市場 441-1

☎0545(65)2202

## ○静岡地域森林県民円卓会議事務局

中部農林事務所 森林整備課

〒422-8031 静岡市駿河区有明町 2-20

☎054(286)9066

志太榛原農林事務所 森林整備課

〒426-0075 藤枝市瀬戸新屋 362-1

☎054(644)9243

## ○天竜地域森林県民円卓会議事務局

中遠農林事務所 森林整備課

〒438-8558 磐田市見付 3599 の 4

☎0538(37)2301

西部農林事務所 森林整備課

〒430-0929 浜松市中央区中央 1 丁目 12-1

☎053(458)7234

## ○森林県民円卓会議の全体に関すること

森林計画課

〒420-8601 静岡市葵区追手町 9-6

☎054(221)2666



環境・経済・社会が調和した森林づくりを進めます。